

支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

おさらいとして

強度行動障害とは…

強度行動障害は状態像であり、医学的な概念とは異なります。つまり、“診断”としての基準がある障害ではなく、生きづらくなっている状態を言います。

本人の特性と、支援や環境とのミスマッチがそうした状態像を作り出します。

言い換えれば、強度行動障害の状態は改善することもできますし、逆に、強度行動障害の状態を作ってしまうこともあるということです。

この時間で学ぶこと1

《強度行動障害を予防するための支援》

- 本人の特性を把握し、その特性に合わせた支援を考えたり環境を整えたりすることが大切になります。
- 本人の特性に基づいた支援を整えることにより、強度行動障害の状態になることを予防する支援を行うことができます。

この時間で学ぶこと1

《強度行動障害を予防するための支援》

- ・ 強度行動障害の状態に陥りやすいと言われて
いる自閉症の方の特性をベースに、支援の在
り方を理解し、具体的な支援のアイデアにつ
いても学んでいきたいと思います。

この時間で学ぶこと2

《支援をブラッシュアップしていく姿勢》

- また、本人の状態像の変化に応じて支援をリニューアルしていかないと、本人とのズレが生じてしまうこともあります。その場合は、改めて今までの支援を見直し、さらに支援の補整や補強を行っていきます。

この時間の流れ

講義

 動画視聴

- ① 支援の道筋
- ② 目で見てわかる支援が基本
- ③ 支援のポイントはどこにあるか
- ④ 具体的な支援のアイデアを動画で
- ⑤ 支援を見直すことの重要性

① 支援の道筋

- 支援においては次のような道筋を大切にします。

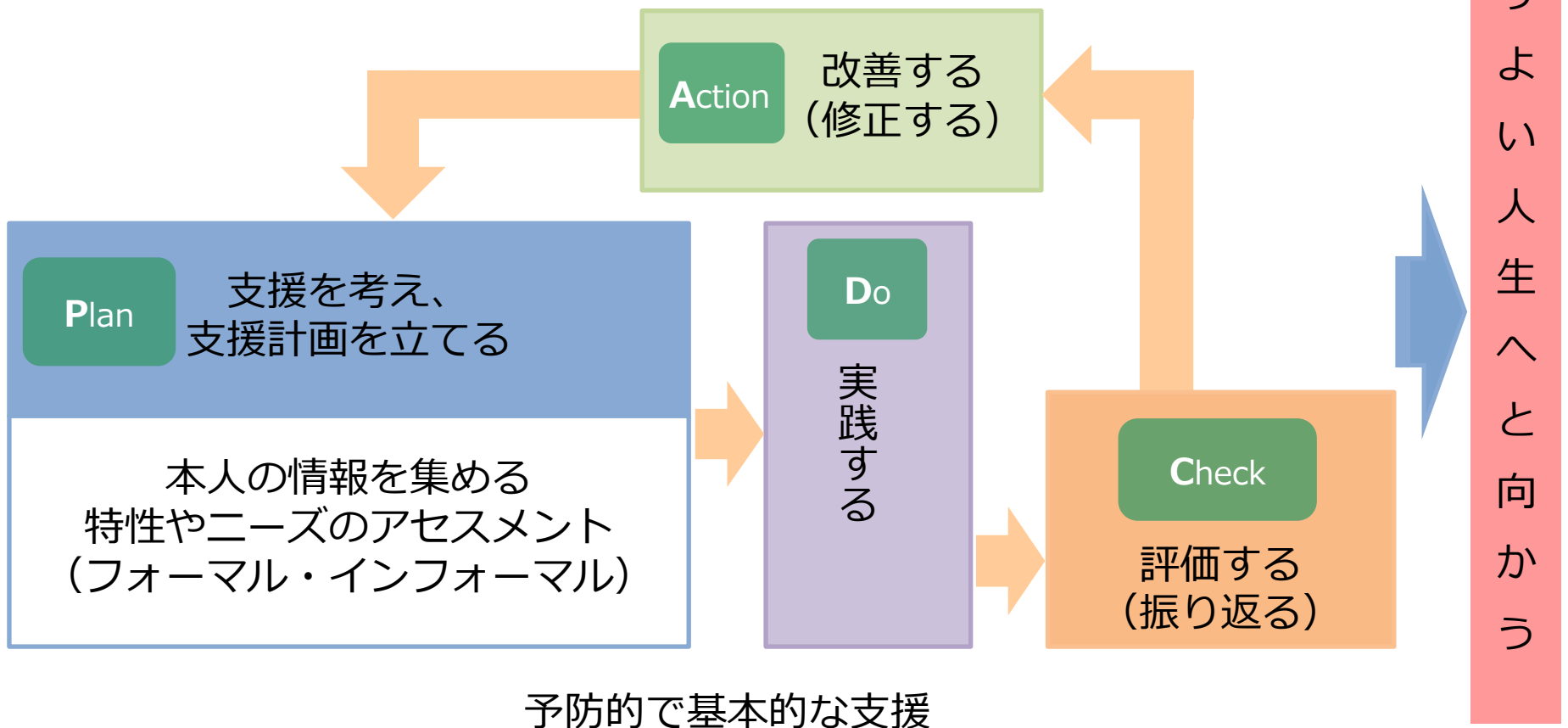
- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう
- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

この講義では、II について主にお話しします。

※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

予防的で基本的な支援をベースに、
プラスアルファの取り組みをするが、そこにもPDCAサイクルはある

強度行動障害の支援



② 目で見てわかる支援が基本

『自閉症の方が強度行動障害の状態に陥りやすい』なぜ？

i) 自閉症（自閉スペクトラム障害）の症状

- ①社会的コミュニケーションの障害
- ②限局的反復的な行動パターン

ii) 具体的な症状の例

①社会的コミュニケーションの障害

- 相手との適切な距離感がわからない
- 話がうまくかみ合わない
- 興味や感情の共有が難しい
- 人の表情や話し方から感情を読み取ることが苦手
- 言葉の理解や使い方、イントネーションが独特
- 人の気持ちを察して話したり行動することが難しい
- 集団行動が苦手
- 暗黙のルールを理解できない
- 皮肉や冗談が理解できない

②限局的反復的な行動パターン

- 何かに没頭するとまわりが見えなくなる
- 物事の手順に強いこだわりがある
- 些細なことが気になって作業が進行しない
- 音、光、人との接触、においなどに対して敏感

iii) 具体的症状から見える他者や環境との不調和

多数派社会の中で、ii の諸症状については、多数派の人間の持つ価値観や感覚が基準となり、違和感として捉えられることが多いと思います。

多数派社会の中で、理解してもらうことができなかったり、仲間外れにされたり、場合によってはいじめられたり、虐げられたりされやすい状況にあることになります。

本人は悪気はなく行動しているのに、思いもしない周りからの扱いや反応をもらうことになってしまいます。

iv) 強度行動障害の状態に至る心の状況

自分の思いに反して、心を傷つけられることになり、

自分を守るため、自分のことを分かってもらいたいために、

『心の声を自傷行為、他害行為などによって表現する』

『著しく限られた行為を繰り返し安心感を得ようとする』

などの行動が継続的に行なわれ、強度行動障害の状態になっていくということが多いように思います。

『自閉症の方が強度行動障害の状態に陥りやすい』理由についてイメージはできたでしょうか？

ここからは、自閉症（自閉スペクトラム障害）の方への支援の基本を学んで頂くことにします。

『目で見て分かる支援』
のお話に戻していきます。

- 目で見えてわかる支援をするのはなぜか？
 - 自閉症の人は目に見えないことの意味を理解したり思いを伝えたりすることに苦手さがあるから
 - 複数の情報を処理することに苦手さがあるから
 - 雑多な環境の中から必要な情報に目を向けることに苦手さがあるから

ここを助けてあげたら、持っている力を発揮しやすくなるはずです。
ですから、目で見えてわかる支援が基本になるのです。

- 目で見てわかる支援をするために

世の中は多数派仕様になっていますから、少数派である自閉症の人たちにとってはわかりにくい情報や生きにくい環境の中で暮らしていることを、まずは理解します。

わかりにくい情報や生きにくい環境で暮らしている人たち。一人一人にわかりやすい形で届けたり整理したりする必要がある

= その人に合わせた支援

= 合理的配慮

③ 支援のポイントはどこにあるか

確実に伝えたい6つの情報

- － 「いつ」
- － 「どこで」
- － 「何を」
- － 「どのくらい」
- － 「どうやって」
- － 「次は」

6つの情報を確実に伝えるための 5つの工夫

- 時間の工夫（生活の見通し）
- 場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）
- 方法の工夫（やり方・終わり・次）
- 見え方の工夫（ヒント・着目）
- やりとりの工夫
（コミュニケーションツール）

「特性確認シート」の支援のアイディアの部分にもこの5つの工夫が書かれています。

時間の工夫（生活の見通し）

- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。

場所の工夫

(活動との対応・刺激の整理)

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
 - 整理整頓は基本中の基本
 - エリア（境界）を明確に
 - 場所と活動とが 1 対 1 対応できれば理想だが...
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする

方法の工夫（やり方・終わり・次）

- 「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために
 - －やることの内容や数や順序が違ってても進め方は同じという“システム”を提示する。

見え方の工夫（ヒント・着目）

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
 - －必要な情報に注目しやすくする工夫
 - －見るだけで何をすれば良いかがわかる工夫
 - －情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫

やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
 - ーコミュニケーションの手続きを視覚的に示し、コミュニケーションの成功体験をサポート

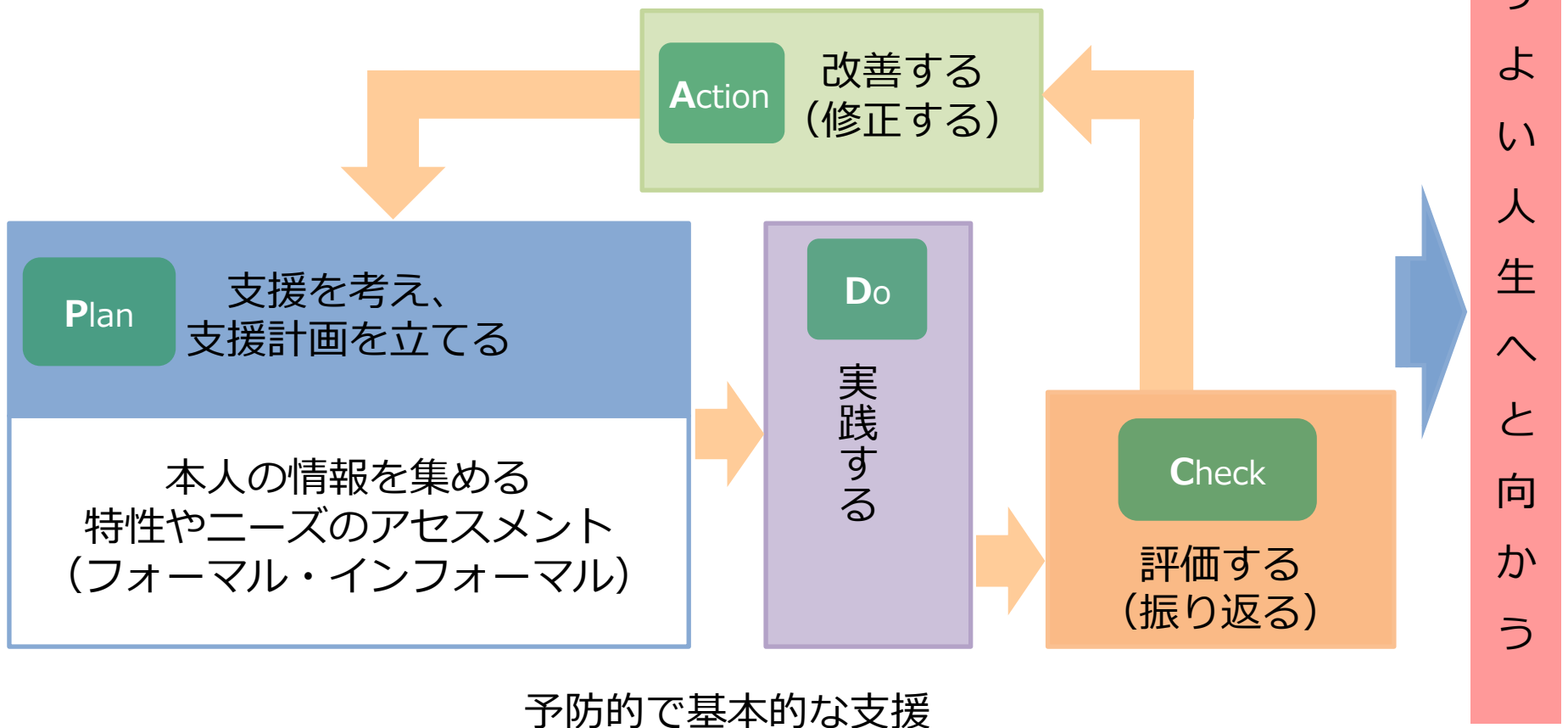
④ 具体的な支援のアイデアを動画で



⑤ 支援を見直すことの重要性

予防的で基本的な支援をベースに、
プラスアルファの取り組みをするが、そこにもPDCAサイクルはある

強度行動障害の支援



おさらいとして

強度行動障害とは…

強度行動障害は状態像であり、医学的な概念とは異なります。つまり、“診断”としての基準がある障害ではなく、生きづらくなっている状態を言います。

本人の特性と、支援や環境とのミスマッチがそうした状態像を作り出します。

言い換えれば、強度行動障害の状態は改善することもできますし、逆に、強度行動障害の状態を作ってしまうこともあるということです。

- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことは当然出てきます。そんなときは、改めて今までの支援を見直し、支援の補整や補強をしていきます。
- この見直し作業を繰り返しながら、本人に合った支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境をつくっていくのです。

ここまでが、
国が定めています強度行動障害支援者養成研修
基礎研修の『支援のアイデア』の内容になります。

残りの時間を使って、更に支援についての考え
方を深めていきたいと思います。

ちょっと、休憩

前半の講義を終えた段階で、皆さんの頭の中には、『目で見て分かるようにする』ということが、非常に重要であるという印象が残っていると思います。

同時に、重要性は分かるけど、『目で見て分かるようにする』というだけでは、上手くいかないことが多いという現実も、どこか意識の中にあるのではないのでしょうか？

ここから先の話は、『目で見て分かるように
する』ということが、

- ・単純なことではないこと。
- ・相手の感情や考えが絡む、非常に思慮が
必要なことである

というお話をしたいと思います。

《分かるようにしたけど、うまくいかない時の背景》

① 『目で見て分かる』 という工夫は

単純なことではない

『目で見て分かるようにする』という支援は、物理的なテクニックのように感じられるかもしれませんが、それだけで成立するものではありません。

【注意！】
見え方、見せ方の工夫だけで
困り感がなくなるという人も
います。

せっかく分かりやすいものにしても、『見なければ』伝わりません。

⇒じっと注視ができない人もいます。

（多動性・衝動性）

見たとしても、『受け入れなければ』意味を成しません。

⇒自分のやり方、自分のルールがある。

（強迫性）

分かりやすくしたらそれで終わりではない。

支援者として、分かるように工夫をしたけど伝わらない場合に、「なぜ、伝わらないのか？」ということを検証する必要があります。

- ・目で見てわかるものになっていない
- ・多動性、衝動性、強迫性への対応
- ・理解する力と支援の妥当性の検証 など

目で見てわかるように工夫するテクニックだけではなく、その伝えたい相手である『人』を捉えることが重要です。

場合によっては、分かるようにコミュニケーション（支援・援助）が必要になります。

目で分かるようにしたけど、うまくいかないということの背景には、こういうことの不足があるのだと考えられます。

もう少し説明しておきます。

自閉症の方への支援では、『目で見て分かる』ように工夫するのは、基本中の基本



視覚支援は、自閉症の方への支援に特化した支援ではない。

視覚支援

目で見て分かるようにしたら、それで良いのではない。

目で見て分かるだろう
(支援者の主観)

≠

目で見て分かる
(対象者の感覚)



『目で見て分かる』ように工夫した内容を、
きちんと分かるように説明する。

『目で見て分かる』工夫をしたことで、支援をしたつもりになってはいけません。

『目で見てわかるようにした』つもりで終わってはいけない。

伝えたいことが伝えたい通りに、伝わっているか？

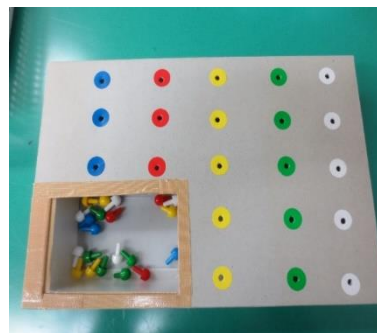
それは、その人が見て分かるものになっているか？

結果が大切である。

《分かるようにしたけど、うまくいかない時の背景》

② 『目で見て分かる』 という工夫は

**相手の感情や考えが絡む、
非常に思慮が必要なこと**



これらの『目で見てわかる』ツール

障害福祉サービス事業所だけではなく、学校や保育園でも、最近よく見かけるようになりました。

自閉症の方への支援において、『目で見てわかる』ようにするということが基本になっていることを実感します。

基本に沿って、見て分かる支援をしているのに、うまく意図が伝わらなくて、支援者が困っている状況を耳にすることが多い。

何でなんでしょう？

〇〇を△△
してね



・嫌やな…
・どうやるねん
…

行動の背景には
気持ち（考え）
が
存在する

上手く動けない、行動が起こせないのは、その人が自閉症であるからではありません。自閉症の障害特性によって分かりにくいこともあるかもしれませんが、自閉症であると同時に、その人は、一人の人間ですので、感情、思い、考えを持っています。

『嫌やねん！』

『それ、やったことないからできへん！』

「嫌だ！」って気持ちがある場合

今日の予定を伝えたい

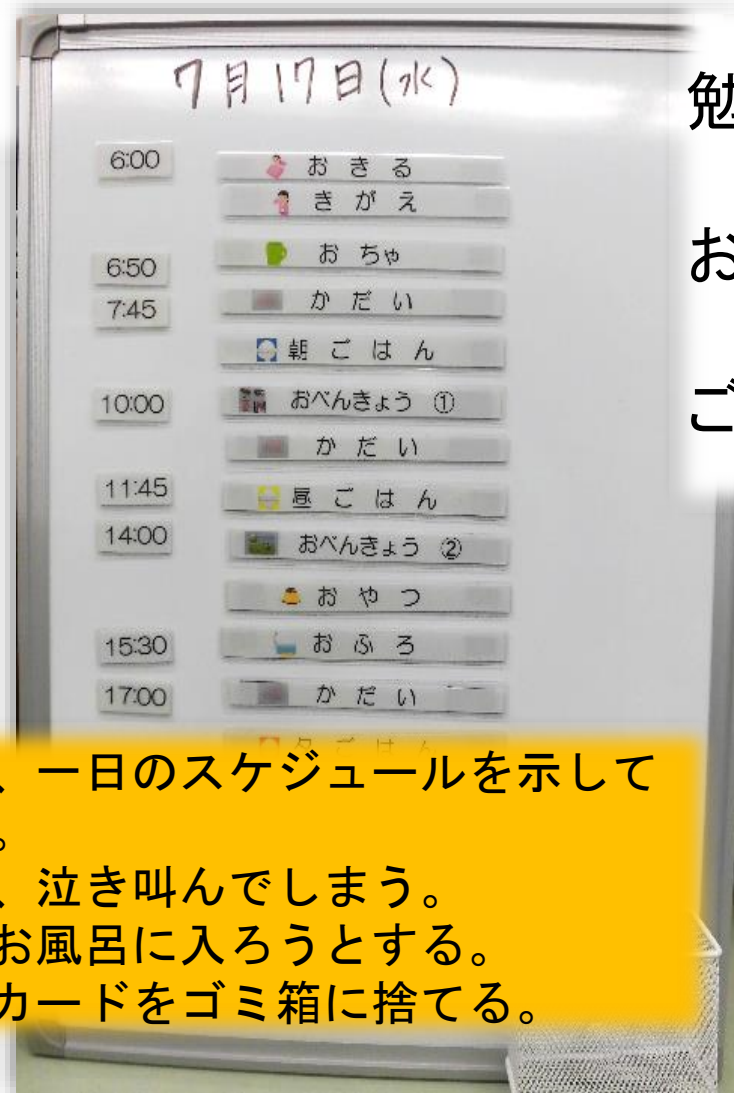
7月17日(水)

6:00	おきる きがえ
6:50	おちゃ
7:45	かだい 朝ごはん
10:00	おべんきょう ① かだい
11:45	昼ごはん
14:00	おべんきょう ② おやつ
15:30	おふろ
17:00	かだい 夕ごはん きがえ ゴミすて

今日の予定は何ですか？
今日もいつも通りかな？

『目で見て分かる』ように、一日のスケジュールを示している。
想定内の様子、反応。きっと伝わっている。

今日の予定を伝えたい



勉強したくない！

お風呂！

ごはん！

おべんきょう ①

お風呂

朝ごはん

『目で見て分かる』ように、一日のスケジュールを示している。けど、伝わらない…。

- ・勉強の時間の前になると、泣き叫んでしまう。
- ・お昼ご飯が終わったら、お風呂に入ろうとする。
- ・『かだい』と書いているカードをゴミ箱に捨てる。

これって、目で見て
分からないから？

『目で見て分かる』ようにした工夫。
嫌だという感情を通すと、全体の見通しではなく、
嫌なことに焦点が当たり、伝えたい見通し、流れ
を知らせることができなくなる。

目で見て分からないのではなく、
見て、嫌なのである。

情報を見て分かるけど動けない気持ち

やったことがないから

したことがないから

→

できない

したくないから

→

しない

表に出てくる行動は、
『拒否』に見える同じもの。

同じ行動でも、原因やその背景が違う。

【意味は分かるけど、やったことがない、できそうにない】

何を伝えられているのかは分かっている様子。
⇒受け入れられない（動けない、動かない）

◎見えている行動の裏にある気持ちを想像する

苦手、できない
と思っている、
面白みを感じて
いない

- ・一緒にやってみる。
- ・上手くいく方法を教えてあげる（細分化、操作方法や工夫のポイントの見える化）
成功体験を作ってあげ、達成感ややりがいを感じてもらう支援。

【意味は分かるけど、嫌や】

何を伝えられているのかは分かっている様子。
⇒受け入れられない（動けない、動かない）

見えている行動の裏にある
気持ちを想像する

嫌！
どう嫌なのか？何が嫌
なのか？どうしたいと
思っているのか？

順番を変える。課題の量を減らす。

自閉症の方への支援の基本中の基本 『目で見て分かる』ようにすること。

伝わった

安心できる
活動がスムーズに行える

自閉症であると同時に、人である
こと、心を持っていることを意識
する。
嫌いだという思いを持っている人
に、見えるように工夫をし続けて
も、もう見えていて「嫌い」だ
と思っているので、解決はしない。

伝わらない

それでは分からない
or 分かるけど『嫌だ』などの思い

その人にとって、もっと分かるよう
『嫌さ』への寄り添いと対応

どう困っているのか？どう思っているのか？考えているのか？

それによって、対応方法は変わってくる。

⇒『目で見て分かる』ようにしたら、終わりではない。

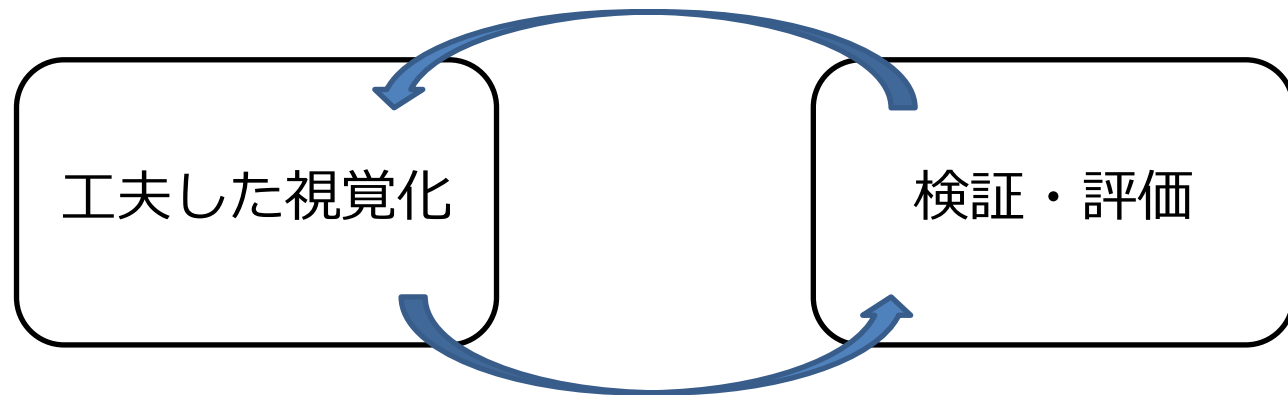
うまく伝わらなかった場合に、なぜうまく伝わらなかったかの検証をする。

分かりにくかったポイントがあるのか？

受け入れられなかった考えや気持ちがあるのか？

それらを見つける、そこに辿りつくために、まず基本として、『見て分かるように示す』

⇒その受け入れの仕方、具合を観察する。



示していることの意味が分からない場合

視覚支援

目で見えて分かるようにしたら、それで良いのではない。

『目で見えて分かる』ようにしているけど、伝わらない…
目で見えて分かるようにしている“つもり”

目で見えて分かるだろう
(支援者の主観)

≠

目で見えて分かる
(対象者の感覚)



『目で見えて分かる』ように工夫した内容を、
きちんと分かるように説明する。それも支援

『目で見えて分かる』工夫をしたことで、支援をしたつもりになってはいけません。

数字の理解

例) 3と5

時計(時刻)の理解

例) 6時ではなく、6
00

順の理解

情報を整理して見れる

例) 左から右
上から下
1から順

文字の理解
名詞(名称)の理解



形の一致

絵と時計を『同じ』として見れる
例) この絵とあの時計が一緒のこと

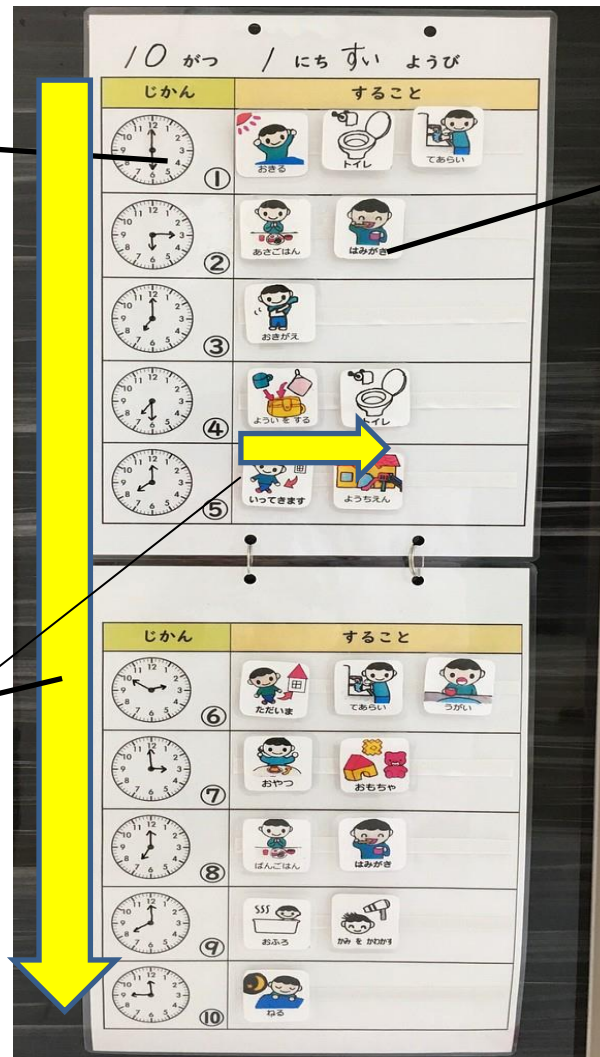
イラストの意味の理解

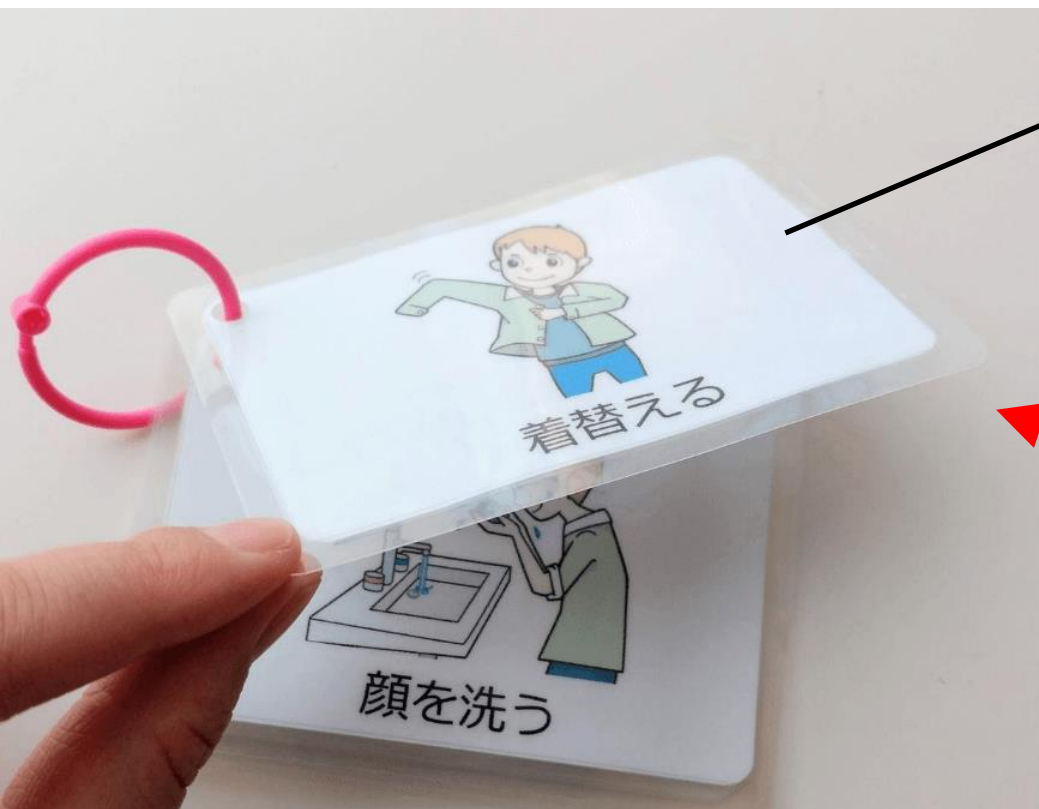
(文字の理解)

順の理解

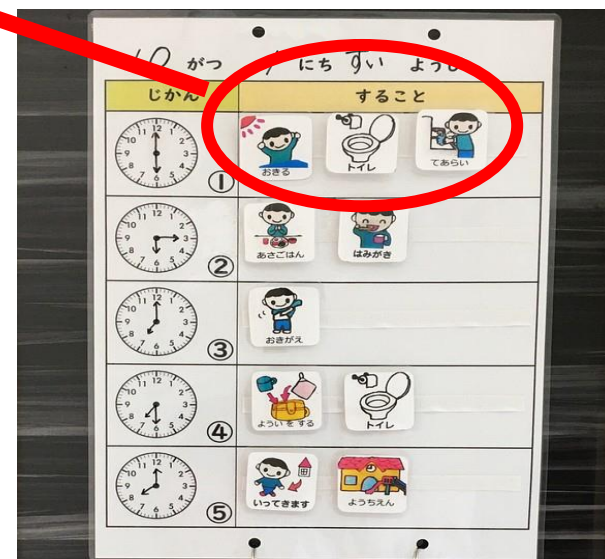
情報を整理して見える

時計に注視できる（または、
声をかけられて分かる）。
時間に長さがあること、時
間が動くことを理解





イラストの意味の理解
(文字の理解)



目で見て分かるように示す



同じことをイメージしやすい

でも
...

獲得している能力によって、見えている情報の意味に差ができる

(文字を獲得していない人に、文字で情報を伝えることは×
| 数の概念を持っていない人に、数字で量を知らせることは×
| 並び、順番というものの理解が難しい人に、時間割表みたいな
| 時間の流れを伝えることは△)

こういったことも意識しながら、『目で見て分かる』工夫を

また、『目で見て分かる』ようにしているけど、分かりにくくしてしまう、別の要因として、

情報過多
ということもある。

視覚情報は伝わりやすく、残りやすいので、

“その人”にとって、『多すぎてしまう』
→多すぎて、“その人”が欲しい情報が見えにくい

“その人”が分からずに困っている・気になっている箇所は限られている場合がある。



逆にたくさん情報を出さないという工夫



『目で見て分かるようにする』ということが、単純で簡単なことではなく、非常に思慮が必要です。

その人にとって、どのように示すことで、伝えたいことが伝わるのか？ どう示すことで、理解ができるのか？

特性や獲得している力を吟味して提示します。

そして、『目で見て分かるようにする』ということが、単純に『分かるかな？』ということを示して終わるという機械的な作業ではないのです。

人が人を思い、どのように示すことで理解してくれるだろうかと気持ちを寄せることが必要です。

そして、時には、分かりにくさを一緒に克服すること、受け入れ難い気持ちを一緒に整理していくこと、人との繋がりの中で解決する部分も必要であると思います。

『支援のアイデア』についての基本的な考え方を前半で、後半には『目で見て分かる』ということについて、少し掘り下げて工夫のための視点をお話させてもらいました。

これで講義を終わります。

ご清聴ありがとうございました。